

0. 登録番号 d-023

1. 提案のタイトル

未来へつなぐ日本の原風景

2. 提案の趣旨

「循環 めぐりをかんじる、めぐってかんじる」をコンセプトとし、我々の生から死に関連する「水」の循環、食物連鎖や輪廻転生などの「いのち」の循環、「エネルギー」の循環など、さまざまな「循環」と「日本らしさ・大阪らしさ」を、会場内を「めぐる」ことで「感じ」られる会場デザインを提案する。提案のポイントは1. 水、いのち、エネルギーの循環、2. 日本らしい・大阪らしい風景をめぐる、3. 自然と人工の融合である。

会場はエントランスとひろば、日本の風景を想起させる5つのパビリオンゾーン、それらをつなぐ運河・園路で構成する。来園者が会場入り口のゲートを抜け、最初に目にするのは、メインエリアへとつながるトンネルである。薄暗いトンネルの先には、見る人を圧倒する巨大な滝のある「光風のひろば」が広がる。ここから先へは、園路、広場の上空を通る「光と風の小径」、水都大阪をイメージした「夢堀通り」を往来する渡し船で進むことができる。

農村風景を模した「夕映ばたけ」や「田園」、瀬戸内海の島々をイメージした「夢島」では、建築物の大半を地中に配置することで、パビリオンの面積を確保しつつも、良好な景観を担保した。特に、高台からの眺望は、「夢堀通り」や「田園」などから瀬戸内海につながる水面が光り輝く印象的な情景となっている。

いのちの誕生・成長を連想させる「生命のもり」は、生命力あふれる大樹をイメージしたパビリオンが立ち並ぶエリアとなっている。大樹の葉が太陽光や風を受けてエネルギーを創り出し、会場内の水の循環に要する動力を担っている。このゾーンでは、自然の景観を、人工物を織り交ぜて演出し、未来社会における自然と人工の調和を模索する。

会場内の水は、光風のひろば上部にあるため池を起点とし、夢堀通りとその他の運河を流れ、田園などの農村部を介して海へと流れる。そして再びため池へと循環することで、「いのちの循環」を表現している。

会場をめぐれば、さまざまな循環と日本らしさ、大阪らしさを感じられるだろう。

3. アピールポイント

- ・扇状地に広がる散居村を彷彿させる会場の意匠デザイン
- ・山と川と海と田畑により島国である日本特有の地形を表現
- ・明石海峡大橋や淡路島、瀬戸内海を借景とした会場の風景デザイン
- ・水がもたらすいのちの循環を表現（滝から流れた水が、各パビリオンに届き、田畑や大樹に新しい生命をもたらす）
- ・日本昔話の要素をちりばめた遊び心と日本らしさの演出